



號七二三第・日八廿月六輯編局報情

# 週報 眞寫

札立の時

断して 撃つのみ  
既にこれら待つあるを恃み  
この日を期したり



# 敵米英の攻めと 緊急迫る太平洋戦局



### 約五ヶ年に亘る年月と、起伏 波瀾に富んだ敵米英の戦局も、

さる六月六日、敵米英の西侵隊人によつて一つの頂點に達したかにみえる。昭和十六年十一月、ヌタリリ首相がソ聯革命第二十四周年記念日の前夜祭で、始めて第二戦線と呼んでから満二年と六ヶ月、次いで翌昭和十七年五月六日にかけて、英ソ條約、米ソ協定が締結されて、米英ソ三國間に第二戦線が公約されてからでも満二年と十一ヶ月、いはい全く擧がしの第二戦線も、今や北フランス、ノルマンディの廣野を中心に、しかも世界戦史に例を見ない激烈さで、大規模に展開されつゝあるのである。

戦局の推移は種々に遠隔することを許されないが、ソ聯が第二戦線に要求する如く「戦争を短期化するため、獨逸軍から少くとも獨逸軍六十師團、同盟軍二十師團を頼かざるやうな新戦線を開闢せよ」とする意向を、反獨逸軍がこの度の北佛上陸に托してゐるならば、敵の新作戦は、今次歐洲大戰の運命を決定すべき重大な契機を、その裡に隠さるゝものと言はねばならない。

勿論盟邦ドイツは、深くこの日のあることを期し、東部戦線、イタリア戦線において、敵に巧みな出血戦術を強ひながら戦線を整理する一方、西歐一帯に鐵石の要塞陣を布き、本年初頭ヒトラー總統の布告にある如く「上陸英軍を手厚くもてなすべく待機してきた

獨逸軍記者は、上陸作戦の難雑さを地獄以上だと評し、また上陸作戦第一日以来米英本國内を受ける病院別室は望みどおり、毎日誰から送られて来る多数の負傷者に一般市民は驚愕してゐると、新聞報道は傳へてゐる。同じく發政作戦に投軍したアメリカの軍機記者ペンソン・ポルトワインが「現在は準備ではなく、斬るべき時だ」と稱してゐるのも前記の上陸作戦の準備に備へたものだ。

しかし、われわれは、無謀ともみえ、傲慢が生んだ無學ともみえる新作戦の底に、彼等一流の押しと采れるほどの自信が、薄味味しく眠打つてゐるのを忘れてはならない。約二ヶ月に近く歐洲大陸を徹底的に爆撃した周到な準備、上陸第一日には一万四千噸の巨大な航空機を符り出したといふ物量など考へ合せると、人的損害の回数は悪人空挺部隊を前線に押し出す如き非人道的な小細工を弄しながら、飽くまでも第二戦線を完遂せねばやまぬとする強烈な意思も忘れてはならないのである。

ルーズベルトは上陸作戦開始(午前)の報が傳はるや深夜、早速戰勝祈禱文を起草したといはれる。しかも、その祈禱文前部に當つては、ニューヨークの株式市場さへ取引を中止し、また米英の各地でも戰勝祈禱が行はれたともいはれる。敵ながら、その熱意は侮り難いものがあるではないか。

そも、敵の新作戦は宣傳の手前とか或はは興論に引きずられたためとか、または軍に、ソ聯の督促によつてやむなくとか、さら

ドイツ宣明報ゲラベルス氏は、反獨逸軍のフランス西岸の上陸と共に「われわれはドイツ婦女を救済した義勇の眼を這へてゐる。われわれドイツ人は一人腹すゝこの考へに固執してゐるのだ。今次作戦の結果は、探偵士になつてゐる英米國民に冷水三斗の思ひをさせ、空中爆撃を作り上げることに専心する宣傳が、恐るべき最後をもたらすことを英米國民に示すであらう」と、鐵火に包まれる如き敵の無差別爆撃にじつと耐へてきたドイツ國民の、火の如き滅敵の願を表明すると共に「敵はよき日を廣くして作戦を開始したものである。今日は四年前ダンケルクの難關が演ぜられた日だ。われわれは敵に第二のダンケルクを現出せしめよう」と待望してゐるのだと確平たる必勝の信念を披露した。

ソチリア作戦、或はベドリオ政権の成功り以来、小成に驕つた敵が、再び西歐に手を染めた瞬間、盟邦ドイツは、これに最大かつ最後の痛打を喰はすべき絶好の機会を捉へ得たとはいへよう。

### 第二次世界大戰の際、七方の米國將兵が殺されたといふ

ルーズベルトは、米國が一時軍隊の歐洲派還を中止したことは、今でも語草になつてゐる。人的損害を種度に氣遣ふ米國の恐怖が、今度の新作戦でも、當然の成行きとなつて現はれてきてゐることはいふまでもない。

には、ルーズベルトが大統領四選のための人気取り策とか、などと皮相な解釋をしたまでは済まされないと思ふ。

當初彼等は獨逸共謀の野望を恐つて、出来るだけ自國の難雑さを避け、あらゆる自買と計を用ひて第二戦線の進展を速してきた。しかも、ソ聯が戦力の陸にかくれて、嘗々自國戦力の難雑に努めてきたことは言ふまでもない。

しかるに獨逸の新展開は、歐洲大陸に対する軍力の増大を意圖してきた。米英は、赤色勢力歐洲攻めを防衛するためにも自ら起つた必要に迫られつゝあつたのであり、彼等の目的は、歐洲におけるソゴスラフに支配世界を再建であつて、總體においては世界再編の野望を乾坤一擲の第二戦線に向け、黒白をこの一戦に決定せんといふことに定めてゐることは隠すところである。

いづれにせよ、人類がかつて経験したことのない大掛りな激戦が更に繰返されるであらう。しかも、戦局の推移も、歐洲大戰の運命を決定し、さらに大東亞の戦争にも實に重大な影響をもつことを、われらは隨時も忘れてはならない。

### 西歐新作戦の勃發によつて、今後一時的にせよ太平洋戦線

に或る種の不静状態を期待する如きものがあるれば、危機感まりない考へ方といはねばならない。現在敵米英は、重大な戦力を西歐に注入してゐるが米軍、殊にその海軍に五つては、戦艦二三を英佛海峡に活動させてゐるのみで、殘敵は悉く太平洋海域に游ばせ

しめ、洋の東西における同時的な敵の反攻作戦には決して輕視を許さないのである。

敵米の武器裝具金額の七割を英に、二割をソ聯に與へ、重慶には僅かに一分に過ぎない數字を見れば、太平洋戦線を輕視してゐる如き錯覚を興へる。だが、昨年八月ヶ月ベラク會談で歐洲戦争第一主義を修正して對日大規模攻勢を決定して以來、敵は歐洲に対する大攻勢の時を同じくして、太平洋においても一大攻勢を開始し得る十分な準備を整へ得たものと擧げてゐるのである。

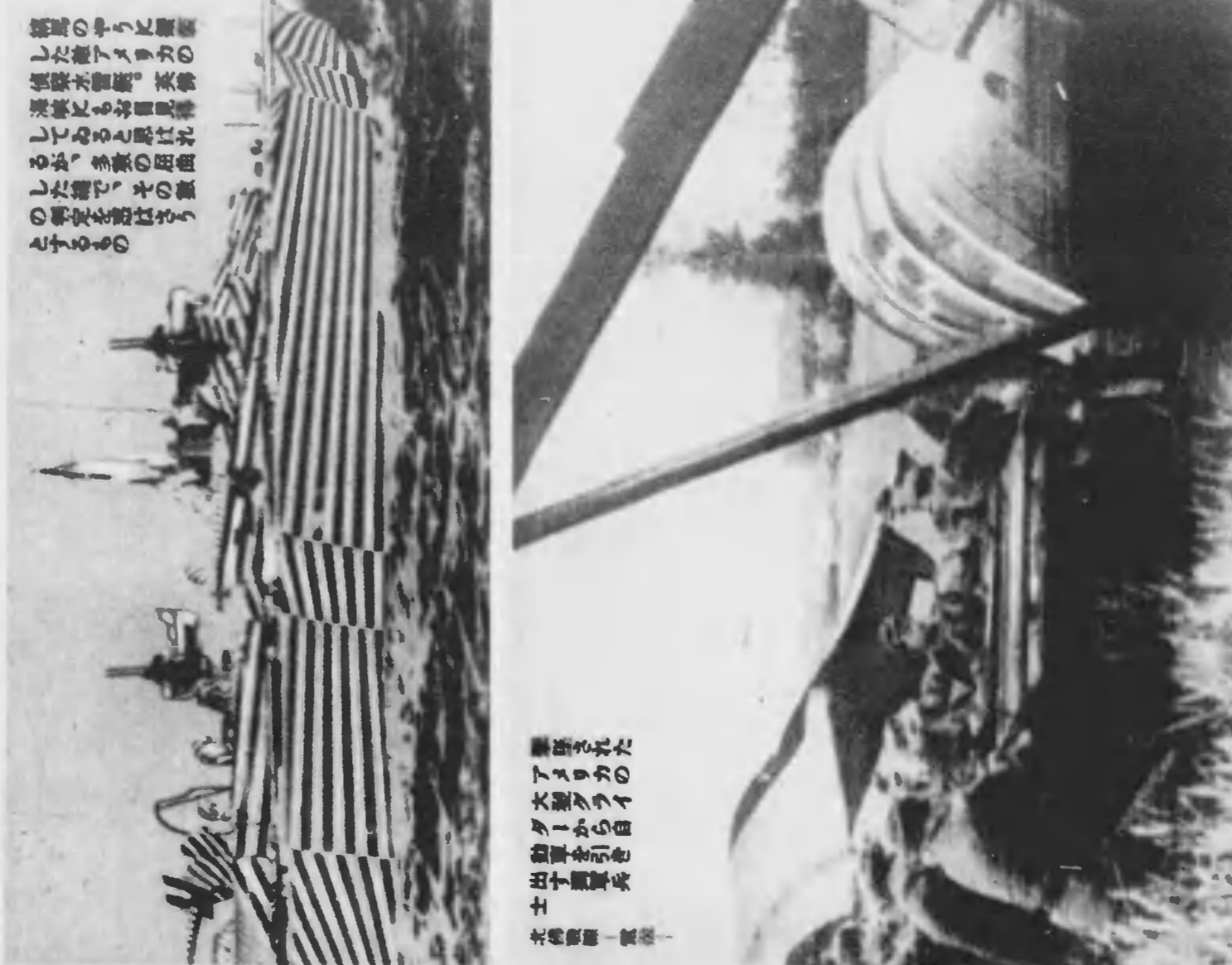
敵艦隊の増強、特に航空母艦と上陸用舟艇の建造に主力を注ぎ、最近米海軍當局は、太平洋水面に六十隻の航空母艦が就役してゐると豪語してゐるが、この數字も單なる誇張とは受取れない。また上陸用舟艇の建造高も過去六ヶ月間に約七十%の増大を示したといふが、これは半期に約五十万トンの建造を意味してゐる。

敵が呼喚する反攻を裏付ける物量については、敵艦隊局長モレルの「海軍は既にその反撃主力を太平洋に移さんと準備してゐる」といふ言葉を、同じく艦隊局長コクレンが「海軍艦隊力は明年になれば二十万トンを突破するであらう」と囃してゐるのをもくも

明らかであり、さらに同時反攻の不逞な企圖については、米太平洋艦隊司令長官ニミッツが、アメリカ機動部隊の充實を誇示して「太平洋戦線と歐洲戦線とは互に影響する如きはなくなつた」と大見得を切つてゐることによつても、十分窺ひ得るのである。

現に、有力な機動部隊をもつて、六月十一日から十三日にかけて、サイパン、テニアン、大宮島などの我が基地を襲撃中であつた敵は、十五日には遂にサイパン、テニアン兩島に上陸を企圖した。事態の急迫は言ふまでもない。

われらは勿論、盟邦ドイツの必勝を確信して疑はないものであり、更に敵の新作戦と同時に、相携へて敵米英に決定的打撃を加へ得る神機を得たものと信ずるものもあるが、またこれによつて、戦争の最も重大な段階に突入しつゝあることを銘記しなければならないのである。今こそ、寸刻の偷安も許されぬ。遂にドイツ軍の健闘を祈ると共に、われらもまた、渾身の勇を振つて、米英撃滅に總蹙起、突進する時期は到來したのである。



襲撃されたアメリカの大艦隊から自衛隊を引き出す獨逸將兵

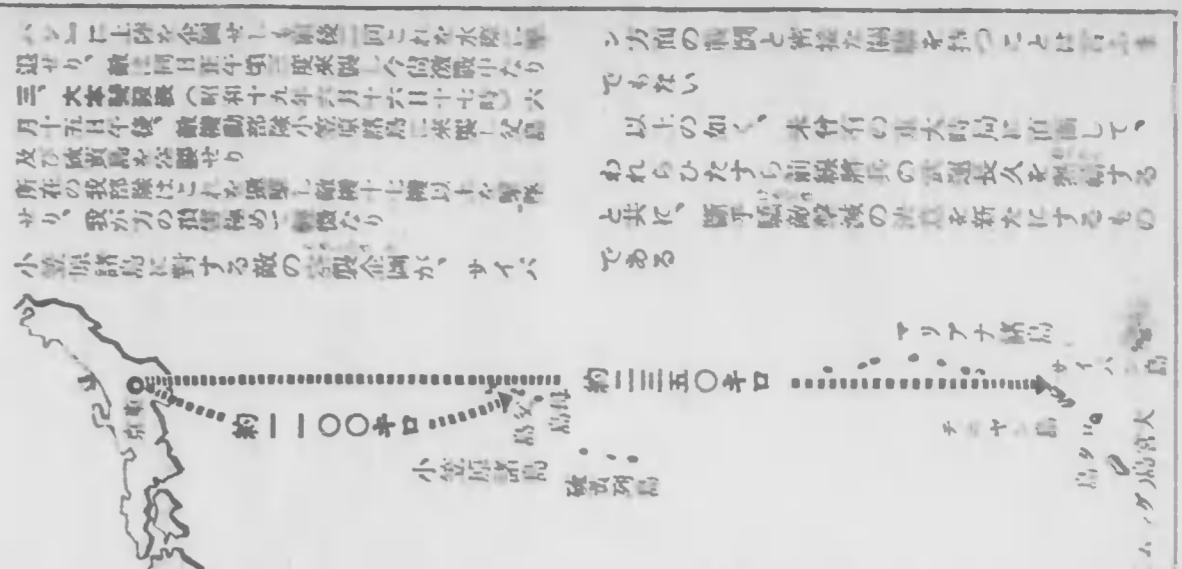


第二のダンケルク難關開始 石川 進介

**週間点描**

敵は、ミラツ艦隊麾下の大機動部隊を以て、わが内南洋マリアナ諸島方面に投擲し同方面の戦局は、甚だしく緊迫してゐる。いま、大本營発表によつて敵反攻の経緯をみる。

- 一、大本營発表(昭和十九年六月十四日十七時)六月十一日有力なる敵機動部隊「マリアナ」諸島東方海面に出現し同日午後より十三日午前四時一サイパン島に上陸し、本島島嶼の我が基地を空襲し十三日には一部艦艇を以て砲撃せり
- 二、大本營発表(昭和十九年六月十六日五時)「マリアナ」諸島に來襲する敵は十五日朝に第一サイパン島に上陸せし、以後二回これを水陸に襲撃せり、敵機動部隊は今日艦隊中なり
- 三、大本營発表(昭和十九年六月十六日十七時)六月十五日午後、敵機動部隊小笠原諸島に來襲し父島及び御蔵島を砲撃せり
- 四、我が機動部隊はこれを察知し、敵機七機以上を撃墜せり、我が方の損害は軽微なり
- 五、小笠原諸島に對する敵の突襲企圖が、サイパン方面の海軍と密接な關係を持つことは言ふまでもない



**北九州に來襲の敵機を撃退  
残骸を晒す超『空の要塞』**

六月十六日深夜二時、支那方面より飛來して逃れ去つた。撃墜敵機中七機はその醜い残骸を地上に晒したが、この中には敵機が超リテの空襲を試みたが、我が機隊の制空陣に阻まれて忽ちその半数を撃墜され、残骸を晒されてゐることが確認された。

▲若松市外に墜落された敵機  
ポインクB29の残骸

▲撃墜されポインクB29のフロア、三脚型でシムラシムラ

▲同じくB29の機頭機 二〇ミリの三脚型と鼻はれる



▲同じくB29の翼の一部、翼のアーチにわが兵隊の遺物が、必中の闘争を見せてゐる

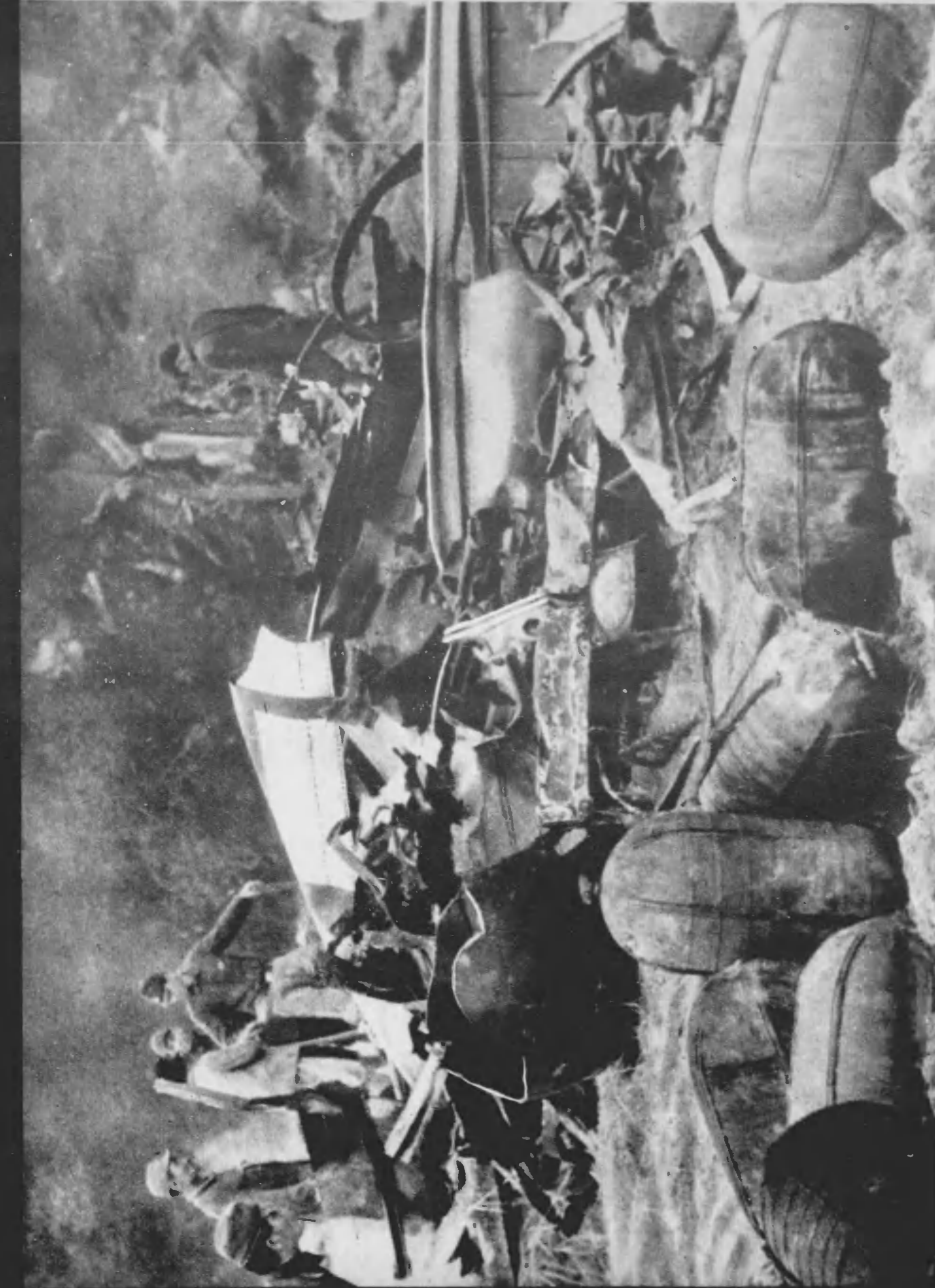
▲同じくB29の巨大な機頭

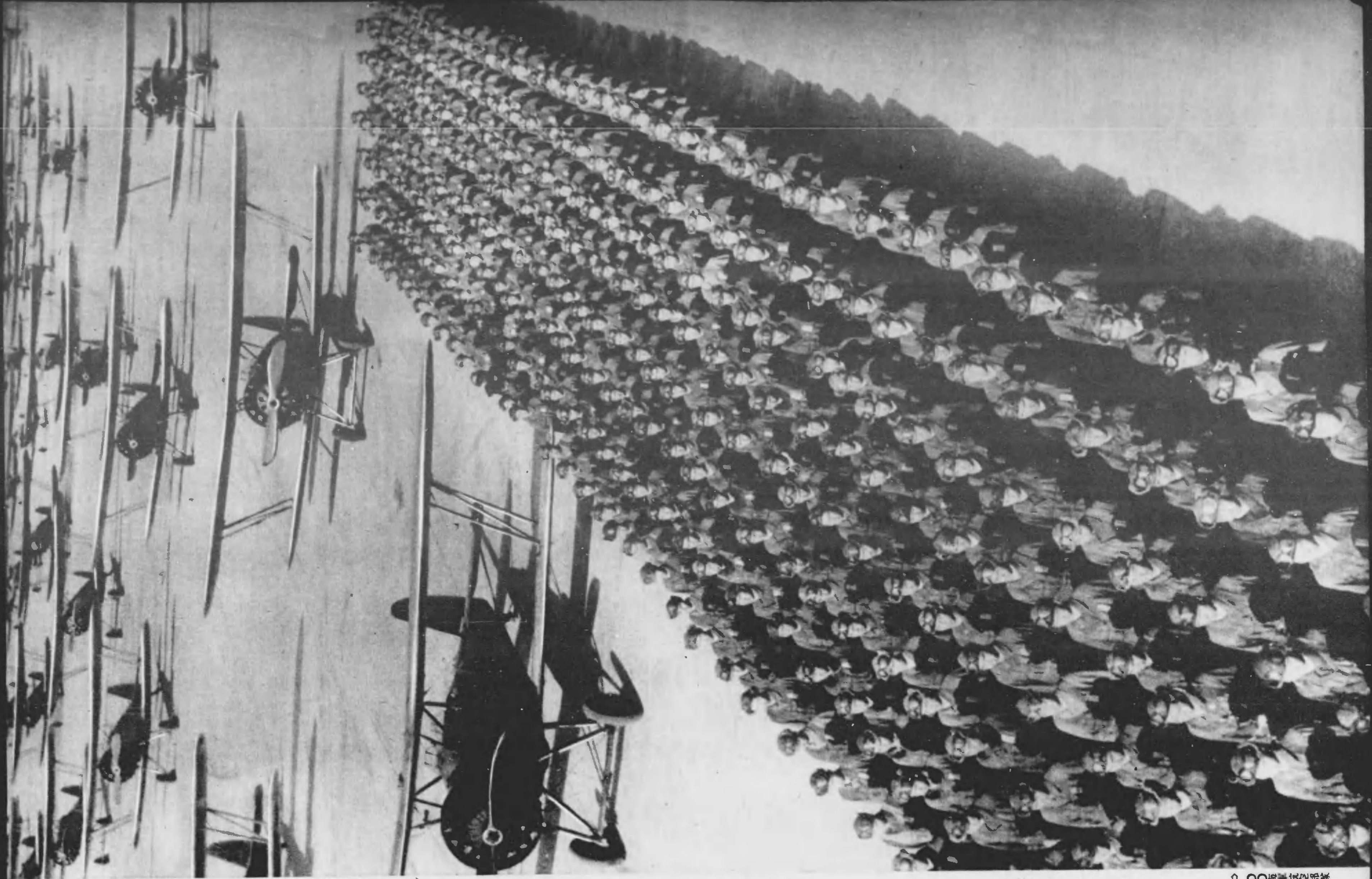


もとより我が損害は軽微であり、敵の意圖は完全に失敗に歸したが、一昨年四月十八日の一時的空襲に比較して、今回は敵が周到な準備の後、特に對日空襲のために製作された新鋭機を以て決行された點で今後も警戒を要する。

しかし常に備へあれば憂へなし、今回制空陣に協力した民防空陣の沈着果敢な行動は、正に今後の範として特記されるべきものである。この貴重な経験を活かしてますます訓練を積み、施設を強化し、あくまで滅敵の國魂を以て、斷乎神州を護り抜かう。

▲敵機壊滅の所産品の一部





# 戦力蓄積

戦力を蓄へよう。われらの血と汗、そして神州の  
 生気が凝つて戦力となり、敵の頭上に炸裂する日  
 の壯絶さを思はう  
 攻勢移轉の戦機は熟した。われらの昂まりつゝあ  
 る戦力を以て、敵の非望を粉碎しようではないか

## 満を持す 精銳學鷲

砂塵を捲いて一機、二機、練習機は飛び立つて  
 いく。森を越え、野を越え、須空に浮ぶその雄  
 姿。操縦桿を握るのは理智的な眸に敵撃滅の決  
 意を燃やした若い學鷲である  
 學鷲を去つて漸く牛鹿、若鷲は既に空を飛ん  
 である。日毎の猛訓練にめきめきと腕は上達し  
 やがて敵地を飛ぶ日も近い。この若鷲の狩場

〇〇海軍航空部隊  
における學鷲



# 戦力蓄積

生氣が凝つて戦力となり、敵の頭上に炸裂する日の壯絶さを思はう  
攻勢移轉の戦機は熟した。われらの昂まりつゝある戦力を以て、敵の非望を粉碎しようではないか  
さあ今だ、一億の力を結集して戦力を積まう

## 満を持す 精銳學鷲

いく、森を越え、野を越え、碧空に浮ぶその雄姿。敵艦隊を掃るのは理智的な陣に敵艦隊の決意を燃やした若い學鷲である  
精銳を去つて漸く牛馬、若鷲は既に空を飛んでゐる。日毎の猛訓練にめまきと腕は上達しやがて敵地を飛ぶ日も近い。この若鷲の狩撃の時、敵は大空から姿を消さねばならぬだろう

〇〇艦隊航空隊に  
おける學鷲





# 麦は曲芸作



# 二千七百万石に挑む移動作業隊

茨城県結城町

さわやかな初夏の風に麦土にみよる二千七百万石の麦の調子がゆれてゐる。さあ収穫だ——中央農事会と大日本電気会では収穫にともなふ人手不足をおきなふため、農商省、軍需省の指導のもとに、各地配電会社支店と農事会に働きかけ、豊收期の電力と遊休モーターを動員利用して全国に三万五千の脱穀作業隊を組織、大々的に麦の収穫にのり出している。作業隊は村から村へとモーターやその他の器材を積んで脱穀してゆく

× ×

全国一の麦の生産を誇る茨城県でも、関東配電茨城支店が農事会と協力、県下一帯にわたつて、千隊の移動作業隊を組織し、収穫に深くましい努力をこめてゐる。そのたくましい戦ひぶりを同縣結城町近郊になつてみた

早く刈りとつて、同じこの土地に田植え。昔代では苗がのび上つて田植を待たせ、労働者仕の女學生をせきたてる。それに明日はいよいよ移動作業隊がこの畑に来つてくることになつてゐるのだ



麦の香のたかい田圃道を電機技手さん農會、郡界の人と二軒にモーターも脱穀機もやつてきた。このモーターはつひ一ヶ月間まで開通した餅米所の片隅に、埃をかぶつておたもので、二馬力だがお一日に一町五段をくらおの脱穀はやつてける

信にモーターをすゝめける。電機技手さんの指導で、村の若年もいまでは慣れた手つき。関東配電の各支店出所ではこの日のため、今年二、三月の農閑期に各村内の若年男女に電氣の基礎知識を興へた性の別別よりなのだ

働つてきたぞ——それ早く。共同炊事所から裏の台所の本紙も働つてゐるが、待て待て。できるだけこのモーターに働いてもらはねばならぬいのだ。今日も女學生はせつせと脱穀のお手傳ひ





夏の健康で張頑つて  
早寝 早起  
病染傳と生衛の夏

つたらしい梅雨が明けると、陽射しがぐつと強くなり、いきなり盛夏です。戦年第三年度の夏、しかも戦争は一刻を争ふ重大な段階に入つてゐて、軽苦しいとか、夏まげとか呑気なことをいつてゐられない大切な時季です。断季戦ひ続く旺盛な戦意で、夏の暑熱を克服するのは當然であります。夏季の衛生や健康維持には十分注意し、各自の戦力を残りなく發揮できるやう心掛けようではありませんか。

次に、夏の健全生活を實踐する上に必要な事を、二、三述べてみませう。

まず、第一に適切な休養をとることに注意して下さい。これまで、夏の日本人ほど不衛生な生活をするものはないと言はれてきました。物みな清々然とした夏には、私たちはどうしても生活活動が積極的になり、どうしても自分の戦力の限界を忘れて無理をしがちです。勿論一億国民が戦意を燃やしてゐる今日、與へられた任務は、どうしても、やり抜く覚悟が必要ですが、自分の自由になる時間は、出来るだけ休養に當てて下さい。夏は、殊に戦力を消耗しがちであり、夏の無理が、秋口にどんで

もない恐い結果を招くことになりま。で、ただ休養をとるやう努力し、水ぎの活動の原動力を呼び、夏の戦力維持に心掛けて下さい。

休養に最も効果的な方法は睡眠ですが、家庭や宿舎などでは、出来るだけ用を早くすませて、早く床につくことを第一に考へて下さい。これには家庭や職場の指導的な立場にある人々が、目下の人の休養について、十分温かい思ひやりと行届いた指導でいたはつてやる必要が要です。

水ぎに寝るが、現在決して十分とは言はれない食糧事情下で、どうしたらわたしたちの健康を確保することができるか、これには當然非常な工夫が必要とします。まづ配給品はかりに頼らず、野菜での他自家生産による食糧の確保に努めねばなりません。都市などでは一坪の菜地も無難にせぬやう、また田舎などでは、野菜を食べる研究、郷土食の普及を興ることも必要です。水ぎには、得た食糧を最高度に活用するため、例へば果物の皮、野菜の葉や根、魚の骨や頭や臓物なども焼かずに食する工夫、時味法、調理法の研究も必要とせう。なほ食物はせむと十分咀嚼して摂取したものは、悪く養分として吸収することが大切です。

また、これは季節を問ひませんが、健全生活を實踐する上、當然考へなければならぬことは常に新鮮な外氣と日光に觸れるやうに心掛けることが大切です。出来るだけ部屋の窓の開放を勤行しませう。夜も窓を明けて寝ることは、健康上、非常に有益です。

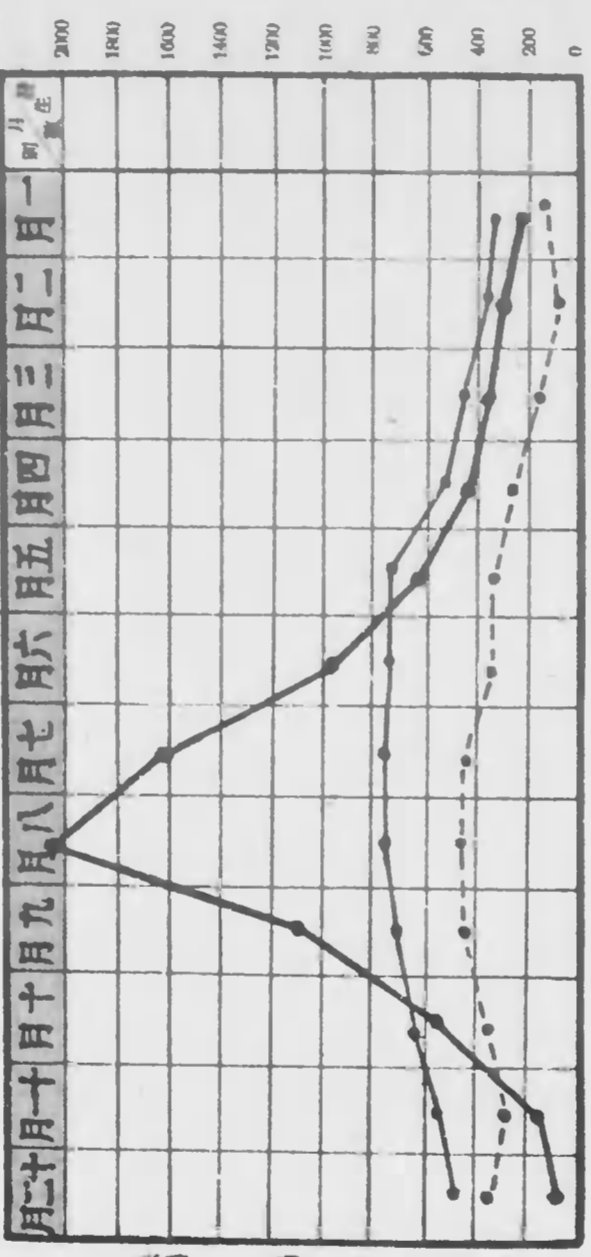
なほ、毎日一定の運動を必ず実行して、積極的に戦力を増進することは、極めて大切です。

規則的な運動の實施は、決して身體を疲勞させるものでなく、かへつて戦力の増進に、また活動能力の昂揚に役立ちます。しかしスポーツ風の體育は必ずしも適當ではなし、各人の戦力や活動状態に應じた訓練を行ふことが最も有効で、訓練と休養を兼ねる一石二鳥の効果があります。しかし、夏と練成はつきものやうな皮相な考へ方から、水浴や登山、登山など行きすぎた訓練は、現在戦力の回復に困難を來し、休養どころか、消耗を來れて、有害無益ですから十分注意して下さい。

さて、水ぎには夏にはどうしても蔓延しがちな傳染病、殊に消化器系統の傳染病ですが、昔から大戦争の歴史は疫病大流行の歴史といはれてゐるほどで、油断をせずと意に注意する必要もありません。二、三年における消化器系統の傳染病のうち腸チフス、パラチフス、赤痢の發生状態は、昭和十七年から十八年にかけて激増してゐま

す。またパラチフスも、昭和十七年から十八年と目立つて増えています。たゞ赤痢だけは、昭和十七年から十八年に涉つて減つてゐます。赤痢が減少してゐる原因は、暴飲暴食などによつて、胃腸障害を起すことがなくなつてゐるためだと思はれます。

昭和十八年中發表腸チフス、パラチフス、赤痢、月別表 (東京部)



腸チフスとパラチフスの發生地域は、大都會が際立つて多く、六大都市が主要地域になつてゐて、先づ京濱地区から中部地区、次いで關西全國へと蔓延してゆきました。従つて、發生の増加が全國的一般的なもので、局地的な、或いは物勃的なものとは考へられません。それで當然その原因も、例へば東京灣のかきとか、銚子のまぐろとか、これも局地的な特殊なものには求められないのです。いはゆる戦時下の國民衛生状態を全般的に低下させてゐる一般的な條件が、同じくこれら傳染病發生の原因となつてゐるのです。例へば、

- 一、飲食物の品質が一層に低下してゐること
- 二、衛生材料資材の不足

三、農産物の不消毒  
四、防疫 衛生関係者の不足並びに資材の不足  
五、従つて、菌の發生が多く、その傳播も十分でない  
六、腸胃の調子がその衛生状態に及ぼしてゐる影響など

以上の如くで、傳染病を防ぐにも、國民の必死の努力が必要な所以が、お分かりになることと思ひます。

- 次に、預防接種などを確實に行ふことも大切ですが、消化器系傳染病預防の三大原則を述べておきます。
- 一、新鮮、清潔なもの以外は、必ず煮沸 即ち加熱して飲食すること
  - 二、煮過ぎたものでも、時間が経過して酸敗の恐れあるものは、決して飲食しないこと
  - 三、たとへ新鮮なものでも、暴飲暴食を避けること

などであり、また醫師、傳染病發生に關する相出が遲延すると、傳染病蔓延の大きな原因になりますから、怪しいと思つたら、早速醫師の診察を受けることが大切です。それでは、これらの傳染病とは、どんな病氣かと言ひますと

赤痢の症状は血液を混へた粘液の下痢と發熱です。赤痢の死亡率は比較的低い方です。赤痢は大部分は赤痢菌によるもので、症状は赤痢と似つて腸を侵し、意識減退、痙攣等の腸の中毒症を起します。疫病は小兒の恐い傳染病で患者の三分の一は死亡します。

腸チフス、パラチフスは似たやうな病氣で後者の方が少し軽い。チフス菌は腸へ侵入してそこに増殖を起しますが、また血液の中に入つて腸内を循環するので、全身病ともいへます。潜伏期は一、二週間で、發病すると初期の間は中等熱があつて日毎に高くなるだけで、他に特別の徴候が少いため診断がつけ難い。腸チフスといふから下痢でもするかとはいふと、必ずしもさうではなく、むしろ便秘する方が多い。死亡率は二〇%に達し、若年層の若や、特に酒飲は危険です。なほ、消化器系統の傳染病で、外來のことに猛烈な症状を呈するものには、コレラがあります。

コレラは死亡率が三、四十%にも達する恐い傳染病で、わが國には最近流行してゐませぬが、常在地は南支、インド、ビルマ等ですからいつ何時やってくるかも知れません。コレラの侵入があると、新聞紙上で報道し、機内飛行が行はれます。

手近にある薬草

手近にある薬用植物を三、三紹介いたします。合成品にはかり頼らず、薬草で調用できるものは、十分活用いたします。

**解熱薬**  
あざさ 唐國等によく栽培される灌木で、この花を採集乾燥したものを蒸餾水といひ、五〜一〇グラムを煎服する。

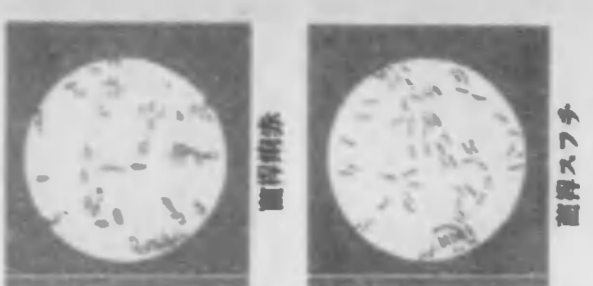
**發汗驅風薬**  
にはと 山野に自生する薬用灌木で、この葉や花を蒸餾水として用ひる。一日用量一五グラムを煎服する。

**鎮咳痰(たんきり)薬**  
おぼはと 山野、路傍等に自生する草で、その根子を採集したものを煎水といひ、一日五〜一〇グラムを煎服する。

**瀉下薬**  
いちぢく 果實を乾燥したものを一五グラム内外

**止血薬**  
むれもから 山野に自生する草で、その根を採集し乾燥したものを蒸餾水といひ、一日用量二〇〜二五グラムを煎服する。

**皮膚病薬**  
すいは 山野に自生する草で、その根汁を皮膚病に用ひる。



中毒症を起します。疫病は小兒の恐い傳染病で患者の三分の一は死亡します。

腸チフス、パラチフスは似たやうな病氣で後者の方が少し軽い。チフス菌は腸へ侵入してそこに増殖を起しますが、また血液の中に入つて腸内を循環するので、全身病ともいへます。潜伏期は一、二週間で、發病すると初期の間は中等熱があつて日毎に高くなるだけで、他に特別の徴候が少いため診断がつけ難い。腸チフスといふから下痢でもするかとはいふと、必ずしもさうではなく、むしろ便秘する方が多い。死亡率は二〇%に達し、若年層の若や、特に酒飲は危険です。なほ、消化器系統の傳染病で、外來のことに猛烈な症状を呈するものには、コレラがあります。

コレラは死亡率が三、四十%にも達する恐い傳染病で、わが國には最近流行してゐませぬが、常在地は南支、インド、ビルマ等ですからいつ何時やってくるかも知れません。コレラの侵入があると、新聞紙上で報道し、機内飛行が行はれます。

有機ガラス

皆さんがよく知つてゐられるやうに、飛行機の機首や窓、砲塔などのやうなよく見えなげにはならないところにはガラスがはめられてゐます。あのガラスが有機ガラスで、合成樹脂の一種のアクリル樹脂で造られたものです。敵機のアースアメリカンB五などでは一機について六〇平方メートル位の有機ガラスが使はれてゐるといひます。

ではなぜ普通のガラスでは駄目なのでせうか。飛行機にとって、一番大切なことは軽いことです。ところが有機ガラスですと軽く強いので、風壓にも十分耐へます。また先をとり性質にすぐれてゐますから、機首などのやうな見通しがよくきかぬはならないところにはもつてこいなければなりません。その上、機首の二〇度から一六〇度位にして軟くすれば流線型にもなるん、そのほか必要な形に造ることができ、日光にさらしても、また雨風に對しても丈夫なので、飛行機にはうつつつけの長所があります。

しかし、長所ばかりでなく表面の硬さが脆いのできつつきやすいことや、伸び縮みしやすいので、ジュラルミンのやうな金属に取付ける時は、気をつけなければなりません。また有機ガラスは前にいつた通り熱せられると軟かくなり、また、熱帯地方では變形しやすい缺點もあります。

さて、この有機ガラスはどうやつて造られるのでせうか。

それがあつたので有名な有機ガラスアセトンといふ化合物に作用させて、アセトンシヤンヒドリンにしてから、更に硫酸とメチルアルコールとを作用させ、メチルメタクリレートといふ有機ガラスの基となる化合物を作ります。次にメチルメタクリレートに酸の助けをかり、光と熱の作用で重合といふ現象を起させて透明なアクリル樹脂の板にします。からしてメチルメタクリレートといふ化合物を揮出集めて、樹脂に結びつきもとの化合物よりもずつと分子が小さく新しくしたものが有機ガラスです。材料工場の努力で缺點も改良され、すぐれた有機ガラスが、産業の目となつて大いに働いてゐます。

